

住友化学 i-農力だより

<http://www.i-nouryoku.com/index.html>

第56号 8月31日
発行 住友化学(株) アグロ事業部
お客様相談室 0570-058-669
発行責任者 古津 昇

目次

農家さん訪問記 (41)	p.1
住友化学アグログループ紹介 住化農業資材(株)	p.6
今月の肥料紹介	p.7
今月のお奨め農薬	p.8
農薬あれこれ?なぜなに?コーナー	p.9
今月のご相談から	p.10
農薬登録情報	p.11
病害虫発生情報	p.12
日本農業新聞広告受賞のご報告	p.13
最近の「お・・美味しい!」	p.14
コラム・そば談義	p.15
編集後記	p.15



カトリバ(カトリバ科)とコリ(ツグミ科)(初秋)
富樫 信樹 画

農家さん訪問記(41)

いちごの先進的栽培に取り組んでいる戸村さん!

今回の農家さん訪問では、栃木県さくら市上河戸(かみこうど)からお届けします。

全国一のいちご収穫量を誇る栃木県で、常に先を見つめた革新的な栽培に取り組んでいる戸村弘一(とむら こういち)さん(53歳)にお話を伺いました。(取材日:7月31日)

はじめに

今回訪問したさくら市は、栃木県のほぼ中央部に位置し、2005年3月28日に塩谷郡氏家町と喜連川町が合併して誕生した人口約4万3千人の田園都市です。県庁所在地である宇都宮市の北東部にあり、鬼怒川東部の平坦な水田地帯にある旧氏家町と、那珂川の支流沿いの丘陵の間の平地に開けた旧喜連川町で構成されています。

「さくら市」という名前は、市民からの応募で決定したとのことで、鬼怒川堤防の桜堤、早乙女の桜並木、勝山城跡、お丸山公園など市内に桜の名所が多いこと由来するそうです。今回ご紹介する戸村さんは、「いちご、水稲、大豆、ねぎ」を大規模かつ先進的に栽培している農家さんです。



戸村弘一さん
いちごハウスの前で

18才で就農、20才で一家の大黒柱に！

戸村さんの家族構成は、父（義一さん）、母（トシさん）、奥さん（美代子さん）、長男（剛英さん）、次男（晋介さん）、三男（和広さん）、長女（晶奈さん）の8人家族です。27歳になる長男の剛英さんは、既に就農して3年目で、後継者としての道を着実に歩んでいます。

戸村家の農業経営の歴史は実にユニークです。父の義一さん、ご本人の弘一さん、長男の剛英さんと三代続く経営の流れは、まるで三段跳びのホップ、ステップ、ジャンプを見ているようです。戸村さんは、高校時代から自分の将来は農業を継ぐことだと考えていました。高校を卒業後すぐに就農し、お父さんの後を歩み始めました。ところが就農して2年後（20歳）に、これからの経営を戸村さんに一任すべきと考えた父親の義一さんは、突然サラリーマンに転身してしまいました。脱サラならぬ脱農業ということで、それまでやっていた農業経営を戸村さんにそっくり引き継ぎました。



ご自宅で語る 戸村さん

若くして一家の大黒柱とならざるを得なかった戸村さんは、当時まだ元気だった祖父の助けを借りながらも、戸村家の農業を支えることになりました。（大黒柱と言えば、お宅に伺ってお茶を頂きましたが、座敷にそそり立つ見事な檜の大黒柱に圧倒されてしまいました！）

戸村さんが18歳で就農した当初は600aの水稲単作でした。しかし、現在は「いちご栽培」が経営の柱になっており、その栽培面積は、200aという大規模なものとなっています。品種はもちろん「とちおとめ」です。いちご以外の栽培作物には、670aの水稲（コシヒカリ）、次いで600aの大豆があります。さらに今年初めて50aの「ねぎ」栽培を始めました。「ねぎ栽培」は連作障害の回避対策にもなり、将来いちご経営が困難になった場合に備えての布石でもあります。栽培面積は合計で約1600aになります。このうち自作地は700aで殆どが水稲です。残りは借地ですが、遠い畑は自宅から4kmのところもあるようです。

いちご栽培は母親が手がけた1～2アールからスタート！

いちご栽培は、18歳で経営を継いだ戸村さんの為に、母親のトシさんが「水稲だけでは弘一が可哀そうだ！」と考え、僅か1～2aからスタートしたのがきっかけでした。当時、戸村さんのいちご栽培技術は未熟で、「親株を植えたら周りを踏みなさい！」といったことをやっている時代でした。このため、最初は親株を枯らしたり、肥料をやりすぎて失敗したりしていました。いちご栽培の技術を習得するのは初心者には簡単ではなく、このままでは経営が大変だということで、トマト、なす、かぼちゃ等の栽培も手がけました。

しかし、その後、積極的に栽培技術を学んでそのレベルが向上し、これとともに、戸村さんが20歳の時に10aの連棟ハウスを建てて、「いちご」の栽培面積を22aに拡大しました。当時の栽培技術のポイントとして、「山上げ」があります。この**山上げ**とは、いちごの苗を高冷地に移動し、低温にあてて花芽分化を促進する栽培技術です。戸村さんは30歳まで標高1500mの戦場ヶ原

まで山上げ（40日間）して、それを下ろしてきて定植していました。この作業は大変労力がかかり、家族の労力だけでは栽培面積を広げることが出来ませんでした。ところが、30歳の頃に、この山上げ作業に替わりうる技術を模索していた戸村さんは、「ウォーターカーテン」という技術を知り、この技術の導入で「夜冷育苗」が可能になり、平地でも育苗出来ることがわかってきました。「ウォーターカーテン」とは、地下水を利用して夏は冷房、冬は低温の外気を遮断する技術です。そして、33～35歳の頃、この「ウォーターカーテン」を設置し、栽培面積をさらに10a増やしました。この技術を導入して、市場が品薄になる時期に「早だし」を実施したところ、当時の主力品種「女峰」が1万円/箱（4パック入り）で販売でき、収量も年内で10a当たり300箱（4パック入り）（300万円）が収穫出来たことから、いちご栽培の将来性に自信が持てるようになりました。



さらに転機が訪れます。44歳頃に「女峰」から「とちおとめ」に転換しました。「とちおとめ」は大果なので収穫作業が「女峰」に較べると大変楽になったこともあり、さらに面積を増やすことが可能となり、60aまで拡大出来ました。これに関わる労働力は、父母と夫婦の4人と3人の親戚、合計7名だけでした。

技術革新はさらに続きます。いちご栽培では従来連棟ハウスが一般的でしたが、現在では殆どが単棟ハウスとなっています。これにはいくつもの理由があります。単棟のメリットとして 温度の上げ下げが早く出来るので管理が容易。ハウス建設のコストが60%程度に下げられる。換気がより短時間で可能等、があります。このようなメリットを考え、戸村さんは従来の連棟ハウスを売り払い、すべて単棟ハウスに建替えています。さらに以前は冬の暖房にはボイラーを使用していますが、ボイラー施設は灯油のコストが大きくかかるとともに、7～8年経過すると故障し、修理が必要でした。これに対して、「ウォーターカーテン」は初期投資はかかりますが、ランニングコストは殆ど発生しません。さらに、設備の耐久性は20年あります。これによりさらに全体のコストダウンが可能となりました。今では戸村さんがお住まいの、ここ喜連川地区では殆どが単棟ハウスになっています。

慎重かつ大胆ないちごの面積拡大！



雑草対策用ビニールシート

こうして技術面の工夫と相まって、販売面の工夫もしています。戸村さんは、生協（首都圏コープ）との販売契約をしています。生協からは栽培上の制約（農薬の使用制限や畑の管理）はあるものの、いちごの大きさによる選別が必要でないため、労力が約半分となり、思い切って面積を拡大することが可能になりました。その結果、38～39歳頃に80a、45～46歳で160aに増やしてきました。そして、50歳で現在の規模である200aまで拡大が出来ました。

ポイントは効率的な育苗に有り！

戸村さんは、いちご栽培では**親苗づくりが最も重要！**と考えています。「とちおとめ」は「女峰」に較べると「炭疽病」に弱いので、発生を見つけたら直ちに抜き取って処分するようにしています。これが最も確実な炭疽病対策のようです。もちろん、予防的な防除としてはベンレート水和剤やバイコラール剤等を使っています。なお、うどんこ病対策としては、シリカキング（ケイ酸）を使用しています。

いちごの苗づくりは、6棟(50a)で約11万株確保しています。1棟に3列のナイアガラ式育苗(空中採苗方式)を採用しています。苗を太らせるには、露地やポット育苗の方が適しています。このナイアガラ方式の育苗方法では、苗が少し細くなりますが、200a規模のいちご栽培では、この方式でないと対応仕切れないのが実情です。

このナイアガラ方式での、苗づくりの重要なポイントとして、ランナーを一端最下段まで伸ばし、その後各段に植えつける工夫をしています。最上段の親株から出たランナーを順次上の段から植えつけると、育苗期間中にランナーが最下段まで到達しないことが多くなるからです。

最近困っていることは、ミツバチの確保が難しくなっていることです。いちごの場合、受粉は100%ミツバチに頼っているだけに、深刻な問題となっています。いちご農家の中には、ミツバチを十分確保出来なくて、奇形果を発生させているところも出て来ているようです。この問題が解決できないと、いちご農家の死活問題になるので、政府にはセイヨウミツバチの輸入確保に向けた対策をしっかりとって欲しいと望んでいます。

昨年はいちごが不作であったことに加え、価格も2割減となりました。戸村さんは、この低価格は恐らく元の水準に戻らないと予想しており、将来いちご栽培による農業経営が行き詰まった時も想定して、今から対応していく必要があると考えているとのことでした。

水稲及び大豆栽培は知恵を働かせて効率化！

水稲栽培は、転作水田を借りて面積を増やしてきましたが、米価が一俵23000円をピークにどんどん下がってきたため、自作地の水田を減らすとともに、水稲栽培に必要な労力を減らす努力をしています。

まず育苗での工夫です。育苗箱当たりの播種量を、通常の1/4の「80g/箱」としています。これで大きな苗を作ります。田植えは1250本/箱とし、12箱で10aに植えつけ、15000本/10aの植え付け密度としています。育苗箱の一般的な使用量は20~23箱/10aですが、これを12箱/10aと少なくすることにより、田植時の育苗箱の補充作業は殆んど必要無くなり、これにかかる労力を節減出来ました。このような工夫で、種籾、育苗用倍土の購入費用を大幅に減らし、田植時の作業の効率化も進んでいます。このような栽培で、収量は約480kg/10aを確保しています。



次に施肥の工夫です。稲刈り後は直ちに「鶏糞」を投入しています。従来は粒状の鶏糞を使用していましたが、生育がなかなか均一にならない為、今年は粒状から粉状に切り替えました。鶏糞の効果があるので、化学肥料は1/3に減らして、20kg/10aのコーティング肥料のみを使用しています。数年後にはコーティング肥料も止め、鶏糞のみに切り替えて地力の維持を計っていく予定です。

大豆は600aという広い面積で栽培していますが、一番の特徴は1400tの堆肥を投入していることにあります。これにより地力が安定するとともに、連作障害が回避出来ていることが最大のメリットと言えます。また、堆肥については戸村さんが奔走して、無償で入手出来るようになり、ここでも大きな経費節減が実現出来ています。

後継者の新たな取り組み！

戸村さんは若くしてお父さんから戸村家の農業経営を全面的に任されました。そして、今の時代に向けて、長男の剛英さんに経営の一部を任せています。いちご栽培以外はすべて剛英さんが担当し、戸村さんは口を出しません。いちご栽培は経験に裏打ちされたきめ細かい技術が必要で、戸村さんから剛英さんに栽培のノウハウを移しているところです。しかし、剛英さんも単に戸村さんの技術を受け継ぐだけではありません。いちご栽培に新たな発想で取り組みを始めています。その手始めに、有機質肥料の投入に向け「すき込み用」のまめ科作物の試験的栽培を実施中で、日々生育状況を観察、記録しています。この試験栽培には戸村さんも口が出せないそうで、力強い後継者に対する信頼が感じられました。



土壌すき込み用のまめ科植物
「マメキング」：剛英さんが栽培中！

あとがき

戸村さんのお話を伺う中で、今名刺の作成を業者に依頼中とのことでしたが、何と名刺の中に「農力」という文字をデザインとして取り入れることにしているそうです。戸村さんの農業に対する真摯な姿勢が感じられました。そして、当社の「i - 農力だより」との不思議なご縁を感じた次第です。また、昨年の一いちご栽培が不作で価格も下がった時、「希望的な見通し」に流れず、冷静な観察で将来の農業経営方法を判断されていることに戸村さんの力量を感じました。

帰り際にご趣味は？とお聞きしたところ、秋の那珂川での鮭釣りとのこと。大きな鮭を釣上げた時の醍醐味が忘れられないとのこと、毎年この時期が来るのを楽しみに、農作業を頑張っているとのことでした。また、いつかカナダにご夫婦で鮭釣りに行く夢を持っておられ、愛妻家の一面も感じられました。

最後になり恐縮ですが、今回の取材に当たっては「JAしおのや営農部」の鈴木課長補佐には大変お世話になりました。紙面を借りて御礼申し上げます。

(小川・山脇)

[目次へ戻る](#)

住化アグログループ紹介 **住化農業資材株式会社**

新制御器！「よくばり細霧タイマー4ch」と 安価ミスト資材「クールネット」のご紹介

最近よく耳にする地球温暖化の影響か？真夏はもちろん真夏を過ぎた時期でもハウス内温度を少しでも下げたいと言う要望が各地から聞こえてきます。そこで弊社では、ハウス内に細霧散水する事によりハウス内温度の上昇を抑制する資材として、間断散水が可能な細霧専用コントローラーの発売と安価なミスト資材の取り扱いを始めました。製品名は「よくばり細霧タイマー4ch」と「クールネット」です。特長は以下の通りです。

よくばり細霧タイマーの間断散水機能

【散水時間】

6秒～594秒（6秒刻み）または1～99分

【休止時間】

1～99分で設定可能。例えば「18秒噴霧し、30分間の休止」の動作を設定時間中、繰り返します。

4系統で4個まで電磁弁を接続可能、電源はAC100V / 200Vの兼用です。

比較的安価なミスト噴霧資材「クールネット」は0.2～0.4MPaの水圧で30～90ミクロンのミストを噴霧し、水タレを防止する卵型の「ADバルブ」の効果でポタ落ちのない間断散水を可能にしました。



設置は、頭上に敷設したポリエチレンパイプに1.5m程度の間隔で専用のパンチで穴を開けクールネットを差し込む作業であり、比較的簡単です。

例えば6m間口なら2列設置が標準です。

遮光資材、および換気扇との併用によりハウス内温度の上昇を抑制する効果が大きくなる事が分かって来ており、上記のようなハウス内に間断散水を行う自動散水装置が、コスト面や営農効果と絡めて各地で大きな注目を浴びつつあります。



[目次へ戻る](#)

【今月の肥料紹介】 米作りを変える。楽一が変える。楽一 27 側条施肥にも対応！

楽一[®] 27



1. 楽一27の特長について

楽一は世界初の倒伏軽減剤入りの基肥一発肥料です。楽一 27 は東北のあきたこまち・ひとめぼれ、3～4 月田植え地域西南暖地のコシヒカリ等の生育に合わせ、複数の被覆肥料を組合せて最適な肥効に配合しています。これまでの基肥一発肥料とは違い、**幼穂形成期の肥効を高めながら稈長の伸びを抑制することで、安定した作柄と品質向上を目指した基肥一発肥料**です。これまで、東北地方のあきたこまちや 3～4 月田植え地域のコシヒカリ栽培等において、安定した収量と品質が得られており、現地でも高い評価を得ております。

2. 楽一27の適用拡大のお知らせ！

今回、平成21年7月8日（水）付けで以下の適用拡大が登録されました。変更点は、全層施用に加え、側条施用に対する現地の要望に応える為、**使用方法に「側条施用」を追加致したことです**。東北地方のあきたこまち・ひとめぼれでは、**全層施肥よりも更に初期生育の向上が期待できます**。また、**施肥量がより少ない3～4月田植えのコシヒカリ栽培等にも適するよう15kg/10aから施用できます**。

なお、変更内容および適用拡大後の適用表は、下記の通りとなりましたので、ご承知の程、宜しくお願い致します。

3. 楽一27の適用表 (農林水産省農薬登録番号:第21559号)

作物名	使用目的	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ウレコザールPを含む農薬の総使用回数
水稻	節間短縮による倒伏軽減	22.5～30 kg/10a	耕起～代かき時	1回	全面施用 土壌混和	2回以内 (種子浸漬は1回以内、 本田では1回以内)
		15～30 kg/10a	田植え時		側条施用	

使用上の注意事項などについては、製品に貼付されているラベルを参照のこと。

[目次へ戻る](#)

今月のお奨め農薬

大豆の病害虫防除

日本における、大豆（乾燥子実）の栽培面積は一番の稲、二番の麦に次いで三番目です。この10年間は、水田の転換畑を中心に栽培面積が増加し、平成20年には147,100haで栽培されています。全国的に見ると、沖縄県を除く殆どの県で栽培されており、北海道、東北6県で約45%の栽培面積になりますが、茨城県、栃木県、新潟県、富山県、愛知県、三重県、滋賀県、福岡県、佐賀県でも大きな面積で栽培されています。

大豆栽培は多くの病害や害虫が発生し、適正な薬剤による効果的な防除が必要となります。病害の中で糸状菌（いわゆるカビ）による病害の代表が紫斑病です。紫斑病は北海道を除いて全国的に発生し、平成19年の実績では、その発生面積は11,801haとなり、農薬による防除面積は6万haを超えています。紫斑病は発芽直後から収穫期にかけて発生し、葉、茎、莢、種子が侵されます。病原体は罹病した種子や葉、茎で越冬し、次の発生源となります。また、細菌による病害の代表が葉焼病で、東北以南で発病が多く、その発生面積は17,804haです。紫斑病はゲッター水和剤とベンレート水和剤で防除してください。ゲッター水和剤には播種前の種子粉衣処理と生育期の茎葉散布処理があります。ベンレート水和剤には生育期の茎葉散布処理がありません。葉焼病はバリダシン液剤5で防除してください。バリダシン液剤5は生育期の茎葉散布処理です。紫斑病に関しては耐性菌が問題となる地域もありますので、防除にあたっては病害虫防除所等の指導を受けてください。

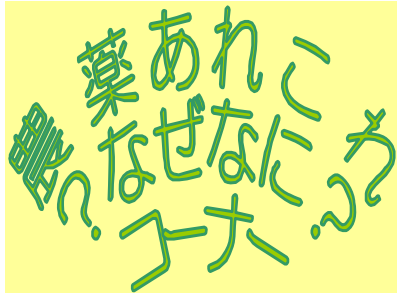
大豆を加害する害虫としては、アブラムシ類、コガネムシ類、ハスモンヨトウ、ハダニ類、マメシクイガ、カメムシ類が1万ha以上の広い面積で発生し、大きな被害をもたらしています。発生面積はこれらの害虫に比較すると少ないですが、ダイズサヤタマバエ、ヒメサヤムシ類、シロイチモジマダラメイガ等も被害が大きく、しっかり防除する必要のある害虫です。また最近、東北・北陸地方を中心にフタスジヒメハムシも問題となっています。これらの害虫に適用のある薬剤の中から主な薬剤を次に取りまとめましたので、ご参考にしてください。

（山脇）



プレオフロアブル

アブラムシ類	: スミチオン乳剤、ダントツ水溶剤
コガネムシ類	: マラソン乳剤
ハスモンヨトウ	: プレオフロアブル、ゼンターリ顆粒水和剤
ハダニ類	: マラソン乳剤
マメシクイガ	: アディオン乳剤、スミチオン乳剤、ダントツフロアブル
カメムシ類	: スミチオン乳剤、ダントツ水溶剤
ダイズサヤタマバエ	: スミチオン乳剤
ヒメサヤムシ類	: マラソン粉剤3（マメヒメサヤムシ）
シロイチモジマダラメイガ	: スミチオン乳剤、マラソン粉剤3
フタスジヒメハムシ	: ダントツ水溶剤



農薬の使用時期が「収穫前日 まで」になる理由は？

ご質問

私が育てているきゅうりやトマト、なすなどの作物は、農薬ラベルの使用時期に「前日」と書かれているものが多いので、先日お店の人にその意味を聞いたところ、「これは収穫前日まで薬が使えるということです」と教えていただきました。

同時に、なぜこれらの作物は「前日」に設定されているのかと聞きましたら、「毎日収穫するものだから」と言われました。これはどういう意味でしょうか？

また、「前日」なのだから、農薬を午後に散布したら、翌日の朝に収穫しても良いのですよね？

質問ポイント

**農薬の使用時期が「前日」になる理由は？
「前日」登録の場合、散布の翌日なら、いつ収穫してもいいの？**

お答え

きゅうりやトマト、なすなどの作物では、同じ株に実が次々になるので、収穫時期がかなりの期間にわたります。この間に病害虫が発生したら、農薬で防除しますが、農薬は株全体に散布しますので、小さな実にも、収穫間近の大きな実にも農薬がかかってしまいます。

では、収穫の時期に、使用時期が「収穫3日前」の農薬を散布したらどうなるでしょう。散布の翌日に収穫時期を迎えた実でも、3日経たないと収穫できないため、適切な出荷時期を逃してしまうことになります。これでは、せっかく防除しても、出荷できない実ができてしまうので、損害になってしまいます。

以上のような理由で、きゅうりやトマト、なすなどの、収穫時期が長く、毎日収穫する作物の場合、収穫前日まで使用できる農薬が数多くあるのです。

もちろん、これらの「収穫前日」登録は、安全性試験の結果、問題がないことが確認されて、初めて認められていますので、ご安心ください。

一方で、これらの作物に登録のある農薬でも、必ずしも「前日」登録があるとは限りませんので、農薬のラベルで、使用する作物の使用時期を必ずご確認ください（注）。

最後に、**使用時期が「収穫前日」というのは、「散布後24時間経ったら収穫しても良い」という意味です**（農林水産省による指導）。ご相談のように、午後に散布し、翌朝に収穫すると、24時間より前に収穫することになりますので、法律違反になります。ご注意ください。

（注）収穫前日数（農薬を使用してから、収穫が可能になるまでの日数）は、個々の作物残留や使用方法の利便性、一日に摂取しても大丈夫な農薬の量など、様々な要素が考慮されて決定されます。詳しくは、本誌36号（2007年12月）の本コーナーと、同号の「今月の相談から」の記事をご参照下さい。

（佐伯・南）

[目次へ戻る](#)

今月のご相談から

アルカリ性の強い農薬にはどんなものがありますか？

Q 1 . 農薬の種類によっては、効果・薬害等の注意事項に、「アルカリ性の強い農薬との混用は避けて下さい」との記載がありますが、このアルカリ性の強い農薬にはどんな薬剤があるのですか？

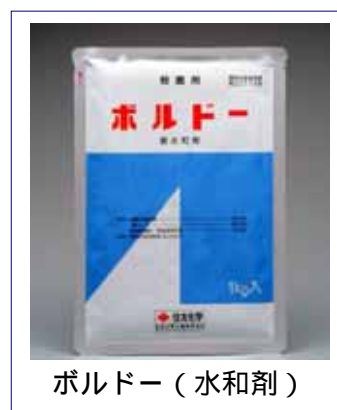
A 1 . アルカリ性の強い農薬の代表的なものには、ボルドー液（石灰ボルドー、ICボルドー）や石灰硫黄合剤があります。このようなアルカリ性の強い農薬は、混用する相手によっては、その有効成分等を分解して、効力を低下させたり薬害を発生させたりする恐れがあります。

Q 2 . ボルドー（水和剤）等の銅水和剤は強アルカリ性の薬剤なんですか？

A 2 . 特にボルドー（水和剤）は、その名称から「ボルドー液」のイメージが浮かびますが、実際は弱アルカリ性ですので、他薬剤の分解という点では、それほど心配はありません。

Q 3 . 銅水和剤には、どんな種類がありますか？


A 3 . 銅水和剤（無機銅剤）には、有効成分の違いから、塩基性塩化銅、水酸化第二銅、塩基性硫酸銅があります。なお、有機銅水和剤も弱アルカリ性です。



ボルドー（水和剤）

Q 4 . JA全農肥料農薬部編の農薬混用事例集を見ると、スミチオン乳剤や水和剤40は、「ボルドー液とは使用直前の混用なら問題なかった」と記載されていますが、どういう意味ですか？

A 4 . スミチオン水和剤40の注意事項（ラベル）には、「**アルカリ性の強い農薬とは混用しない。ただし、ボルドー液と混用する場合は使用直前に混合する。（分解）**」と記載されています。これは、この剤の有効成分のMEPが、ボルドー液の強アルカリにより分解していきますので、混用後は速やかに散布しないと殺虫効果が低下するという事です。また、この場合のアルカリ性の強い農薬とは、石灰硫黄合剤のこととお考え下さい。もちろんこのことはスミチオン乳剤、水和剤40に限ったことではなく、殆どの農薬は「強アルカリ性の薬剤」との混用は避けるか、使用直前に混用するか、どちらかの注意が必要です。



**スミチオン水和剤40
ラベルの裏面抜粋より**

使い方： 散布（榴は10ノール当り3ℓを空中散布）

△効果・薬害等の注意

- DCPA剤との10日以内の近接散布はさける。(薬害)
- あぶらな科作物にはかからないようにする。(薬害)
- アルカリ性の強い農薬とは混用しない。ただし、ボルドー液と混用する場合は使用直前に混合する。(分解)
- 果樹のカメムシ類に対しては、発生に応じて所定範囲内でくり返し散布する。(効果)
- 桃の初期散布(5~6月)には注意する。(薬害)
- りんごの旭種及びその近縁種には、他の有機燐剤と同様に薬害の出ることがあるので注意する。

Q 5 . ICボルドーは「塩基性硫酸銅」ということですが、アルカリ性は強いのですか？

A 5 . 従来のボルドー液は、農家が手作りして生石灰と硫酸銅から調製して使用していました。ICボルドーは「ペースト状ボルドー液」ということで、生石灰と硫酸銅が調製済みの製品であり、水で希釈するだけで使えるようになっています。従って、ICボルドーもボルドー液と同様に、アルカリ性の強い薬剤ということになります。（小川）

[目次へ戻る](#)

農薬登録情報

適用拡大 7月22日～8月19日までの主な適用拡大内容です



種類	薬剤名	変更点	作物	病害虫名/ 使用目的	使用量ほか	
殺虫剤	パダン SG 水溶剤	害虫追加	キャベツ	ハイマダラメイガ	1500 倍	収穫 14 日前まで 4 回以内 散布
殺菌剤	ダコニール1000	使用時期変更 負の変更	なばな	「収穫 21 日前まで」 「出蕾前 但し、収穫 21 日前まで」に変更		
	パスポートフロアブル	使用時期変更 負の変更	西洋なし	「収穫 21 日前まで」 「収穫 30 日前まで」に変更		
殺虫 殺菌剤	ブイゲットプリンス リンバーL 粒剤	病害追加	稲 (箱育苗)	白葉枯病	育苗箱 1 箱 当たり 50g	緑化期 ～移植当日 1 回 育苗箱中 の苗の上から 均一に散布
				もみ枯細菌病		移植 3 日前 ～移植当日 1 回 育苗箱中 の苗の上から 均一に散布
		使用時期変更		ウンカ類 ニカメイチュウ	「移植 3 日前～移植当日」 「緑化期～移植当日」に変更	
除草剤	テイクオフ粒剤	適用雑草名 変更(地域)	移植水稻	「ヒルムシロ(東北、北陸、九州を除く)」 「ヒルムシロ(北陸を除く)」に変更		
		適用土壌 追加		「セリ(東北、北陸、九州を除く)」 「セリ(北陸を除く)」に変更		
		使用時期と 適用地帯の 変更		「東北、北陸」に「砂壤土」を追加		
	使用時期:「移植後 10～30 日」に変更 適用地帯:「北海道」と「全域(北海道を除く)の 普通期及び早期栽培地帯」に変更					
	トレファノサイド乳剤	作物追加	漬物用すいか (トンネル ・マルチ栽培) 漬物用メロン (露地栽培 (トンネル ・マルチ栽培))	一年生雑草 (ツクサ、ヤツリグ サ、ク、アブ、ヲ科 を除く)	200～300ml/10a 100ℓ/10a 150～200ml/10a 100ℓ/10a	定植前 (植穴掘前) (マルチ前) 1 回 土壌表面散布

除草剤	トレファノサイド乳剤	使用時期と 総使用回数 変更	ねぎ わけぎ	一年生雑草 (ツクサ、ガツリガ サ、サ、アブ、ヲ科 を除く)	使用時期:「定植後雑草発生前 但 し、収穫 30 日前まで」に変更 総使用回数: 2 回以内に変更
		使用時期 変更	かんしょ		「挿苗前(マルチ前)」 「挿苗前」に変更
			さといも		「植付直後」 「挿苗後雑草発生前 但し、収穫 60 日前まで」に変更
			にんにく		植付後(マルチ前)但し、植付 7 日後まで 「植付後 但し、植付 7 日後まで」に変更
			麦類		「植付前(マルチ前)」 「植付前」に変更
		適用雑草名 名称変更	適用雑草名「畑地一年生雑草」、「畑地一年生イネ科雑草」から 「畑地」を削除する		

(佐伯)

[目次へ戻る](#)**病害虫発生情報**

8月7日～8月18日

福島県

- * 8月7日 特殊報 / トマト / ポテトスピンドルチューバーウイルスによる病害
当社登録剤: 該当なし
- * 8月10日 注意報 / 稲 / いもち病(穂いもち)
当社登録薬剤: ブラシン水和剤・粉剤DL・フロアブル・ゾル、ビーム粉剤DL・ゾル
詳細は: <http://www.pref.fukushima.jp/fappi/index.html>

神奈川県

- * 8月13日 特殊報 / うめ / プラムポックスウイルスによる病害(アブラムシ類により媒介)
当社登録薬剤: アグロスリン水和剤、アディオオン水和剤・乳剤、スミチオン乳剤、
ダントツ水溶剤、マラソン乳剤、ロディー水和剤
詳細は: http://www.agri-kanagawa.jp/nosoken/yosatujoho/y_index.htm

長野県

- * 8月7日 特殊報 / ほうれんそう / ホウレンソウモザイク病
当社登録薬剤: 該当なし
詳細は: <http://www.pref.nagano.jp/xnousei/boujo/yosatujoho/yosatsujyoho.htm>

新潟県

- * 8月13日 **注意報** / もも / モモせん孔細菌病
当社登録薬剤：スターナ水和剤、バリダシン液剤5
- * 8月13日 **注意報** / ぶどう（露地栽培） / ブドウベと病
当社登録薬剤：該当なし

詳細は：<http://www.pref.niigata.lg.jp/bojo/yosatu21.html>



もも

せん孔細菌病の被害果実

大阪府

- * 8月11日 **注意報** / 稲 / いもち病（葉いもち・穂いもち）
当社登録薬剤：ブラシン水和剤・粉剤DL・フロアブル・ゾル、
ビーム粉剤DL・ゾル

詳細は：<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>

佐賀県

- * 8月18日 **注意報** / 稲 / いもち病（穂いもち）
当社登録薬剤：ブラシン水和剤・粉剤DL・フロアブル・ゾル、ビーム粉剤DL・ゾル

詳細は：http://www.pref.saga.lg.jp/web/_13693.html

鹿児島県

- * 8月7日 **特殊報** / きく科作物 / アワダチソウゲンバイ
当社登録薬剤：該当なし

詳細は：<http://www.jppn.ne.jp/kagoshima/yosatu/yosatutop/YOSATU.HTM>

(柳原)

[目次へ戻る](#)**平成20年度 日本農業新聞広告賞****パリエーション広告部門 優秀賞 受賞!****「住友化学農業応援団 がんばり隊
もっと、農業にできることを。」**

このたび、日本農業新聞に掲載された弊社の広告「住友化学農業応援団 がんばり隊 もっと、農業にできることを。」が、同新聞パリエーション広告部門で優秀賞に選ばれました。この広告は、単なる「製品の広告」ではなく、弊社の各営業所で活躍する「現場の営業マン」にスポットを当てたものとなっており、今年の2月23日から始まって計6回シリーズで掲載されました。広告賞の審査では、プロの審査員の投票のほか、一般から選ばれた読者審査員の方の投票が大きなウエイトを占めているとのこと。今回弊社の広告が受賞できましたのも、ひとえに広告を見てくださった皆様

受賞盾を手に・・・
普及部長 原田

受賞した広告「がんばり隊」シリーズ

のおかげとっております。この場を借りて、御礼申し上げます。住友化学は、「農業のあらゆるご要望に応えます」をモットーに、今後も皆様のお役に立てるようがんばって参ります。住友化学をどうぞよろしくお願いいたします。

(南)

[目次へ戻る](#)

最近の「お・・美味しい!!」

今年もやっぱり美味しかった!

弊社相談室から佐伯がお送りします
最近の「お・・美味しい!!」
女性の目・主婦の目・はたまた酒呑み??の目(笑)で、
毎月「これぞ!!」というものを紹介します。
どうぞお楽しみに♪♪♪

今年の夏も昨年に引き続き、野外で開催されるロックフェスティバルに行ってきました。暑いさなか、3日間にわたって音楽を楽しむというこのお祭りには、約15万人という人が集まります。毎年会場となるのは、茨城県ひたちなか市にある「国営ひたち海浜公園」です。一度会場に入ってしまうと、ひろい公園内にあるいくつかのステージで、お目当てのアーティストや、気になっていたアーティストの演奏を、「好きな時に気ままに見られる」というのが、野外フェスの醍醐味です。しかし、醍醐味は他にもあります。まずは、公園内にある森林の中で、思う存分森林浴ができること、そして、何と云っても、野外で食べる美味しいモノ!!

真夏の野外ですから、水分・塩分補給はもちろん、栄養補給もかせません。ステージからステージへ移動したり、歌を聴きながら一緒に踊ったりしていると、知らないうちに体力を消耗するもの。いつの間にか「ハラペコ」になってしまいます(いつでもハラペコだったというのが正しいかも)。そんな人たちのために、会場内には、屋台村のようなものがいくつもあります。その中でも、やはり我々が愛してやまないのが、茨城県内の野菜やお肉、海産物を使った美味を出してくれる「湊屋(みなとや)」



揚げたて! メヒカリの唐揚げ



つるん!

なめらか絹豆腐 ~ 味が濃い!!

スペースです。昨年もここに入り浸っていましたが、今年もやっぱり入り浸ってました(笑)。とにかく、新鮮で美味しいの! いろんなモノが(興奮)!! たとえば、夏野菜のカレーやら、その場で打ってくれる地元のお蕎麦、さらに「お店の人も燻されてるんじゃないか?」というくらいにモクモク煙の中で焼かれる五浦のハム焼き、恒例のメヒカリ唐揚げと一口アワビ、かぶりつきOKの新鮮トマト・きゅうり、プリンのように「もったりなめらか」

な「冷奴」、ジューシーな地鶏を使った唐揚げ、などなど・・・ハラペコたちにとって、すごく魅力的なものばかり。下妻地ビールを片手にいただければ、もう「完璧!!」です(やはり狙いはそこか!(笑))。

このお祭りに初めて参加してから、実はかれこれ7年が経ちます(すでに古株)。好きなアーティストが演奏するから見に行く! というのもありますが、年によっては、「特に見たいアーティストが出ない年」もあるのです。でも、毎年参加してしまうのは、木陰で休みながらビールとメヒカ리를味わいたいから! かもしれません。まさに、花より団子!! でもいいんだ。実際、森の中でいただくビールって、ほんと美味しいんだもの。今年もいろいろご馳走さまでした(茨城県民様ありがとう)!! 来年も行きますので、よろしく (佐伯)



ひえー

フワフワ

筆者による「きゅうりでホームラン予告」の図(パカモノですみません)

[目次へ戻る](#)

コラム・そば談義 56

浅草寺の近くにかっぱ橋道具街がある。

この街は、飲食に必要な道具を扱う店が軒を連ねている。かっぱ橋道具街業種別マップには、和洋中華の食器、陶器、漆器、料理飲食用器具などの店が170ほどある。初めて訪れた人は、目的の店を探すのに一苦労する。しかし、ショーウィンドーを飾るディスプレイなどの面白いものも多数あり、私などは時が経つのを忘れて片端から店を覗いた経験がある。

この日、私は少し長めの麺棒が欲しくなり道具街にやってきた。目的の店は「竹むら」と云って、そば道具や漆器の専門店である。この店は東京メトロ銀座線・田原町駅を下車して、浅草通りを上野駅方面に5分ほど歩くと見えてくる。「竹むら」の若旦那・竹村さんとは江戸ソバリエ倶楽部のメンバーで構成する「うずらの会」の仲間でもある。お若い漆器やそば道具に大変造詣が深く、その上にそば打ちの腕も見事なものである。

今回、麺棒について材質から木目の見方、手入れの仕方などを懇切丁寧に教えて頂く。そのことを少し記すと、麺棒は胡桃の実で磨けばすべりがよくなり表面を保護するが、市販のボトルに入った胡桃油は酸化しやすいため使用を避けたほうがよい。その方法は胡桃の皮をむいて取り出した果肉を布の上に置き、麺棒の両端で砕くと胡桃の油が布に染み出し、それで磨くと麺棒に艶がでてそばの麺体を広げるときも滑りがよくなる。また、麺棒は立てかけて保管すると曲がりがあるので、必ず寝かせておくのがよいということなどである。

実をいうと、いま私が一番欲しいものは捏ね鉢である。特に、栃の木の手捏ね鉢は最高だ。しかし、大きな栃の木は年々少なくなり、それと共に高価になり過ぎて手が出ない。代わりにプラスチック製であれば何とかなる。最近、技術の進歩でプラスチックに漆を塗ったものがあり、20寸鉢で深さも丁度よくどっしりとしていて気に入ったものがあった。その次に、欲しいものはそば切り包丁である。包丁職人の名前で値段に開きがあり、腕のいい職人のものは手に取った瞬間しっくりきて、切れ味もよく、使えば使うほど馴染むのである。道具は、スポーツの世界でも新素材や技術の進歩で記録や飛距離などが飛躍的に伸びることがよく知られているが、昔から職人の道具は、これとは違った奥深さがある。そば職人と包丁職人がお互い意見を出し合い、切磋琢磨していい包丁が作られてきたのであろう。俗に言う腕前と道具は一心同体のところがあり、腕が上がれば道具も一緒になじんでくるのであろう。職人さんの道具を見せていただくことが時々あるが、使い慣れた道具には、くっきりと手のひらや指の形までが付いている。それを見ると、いかにも年季がはいっていると感ずるのである。

私のような月に1～2度しかそば打ちをしないようなものでも、手に馴染んでくる道具を持ちたいと思うのである。そのような道具を持つのは贅沢と少し思わぬわけではないが、これから一生そば打ちを趣味にしていこうと考える自分にとって、女房の眼が多少は気になるが、ここは黙って揃えておきたいと密かに思っている・・・(古津)



イラスト：川俣さん

編集後記 やっと、お盆前後から夏らしい天候が戻ってきた。

今夏は天気が不安定で、生産者の方のご苦労されたことと思う。先日の情報では、香川県の白方ぶどう「デラウエア」が7、8月の降雨と曇天続きで一定の品質が保証出来ないと出荷を停止したそうだ。

天候不順は、生産者にとって経営的ダメージを大きく受けることになる。これから先、全国的に好天が長く続き、秋の収穫が少しでも回復することを願わずにはられない。



イラスト：加藤さん